

〈展覧会紹介〉ピカソ フランス国立図書館版画コレクション	[2~3]
〈イベント報告〉院展	[4~5]
〈研究メモ〉高屋肖哲筆「高野物狂」にみる「平家納経」の引用について	[6]
美術館友の会 平成30年度春の見学会	[7]
シリーズ ふく美の記憶① 開館前夜(～1977)	
次回の展覧会のお知らせ	[8]
それゆけ! プブ広報部隊 其ノ十一	
美術館喫茶室ニホ スペシャルメニューのお知らせ	
お知らせ	



パブロ・ピカソ《ボンボンのついた帽子をかぶりプリントブラウスを着た女の肖像》1962年

©2018-Succession Pablo Picasso-BCF(JAPAN) フランス国立図書館蔵 ©Bibliothèque nationale de France

ピカソ

フランス国立図書館版画コレクション

Picasso et l'art ancien
à travers les estampes de la collection
de la Bibliothèque nationale de France

7/14^土
→ 8/26^日

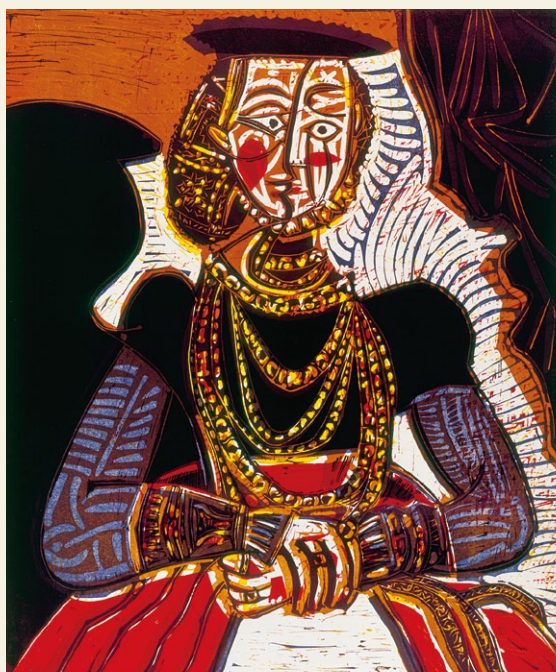
【休館日】8月6日(月)
【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
※7月14日(土)は午前11時～
[前売り]一般1,000円、ペア1,900円
[当日]一般1,200円(団体1,000円)
高校生700円(団体500円)、中・小生400円(団体300円)
※団体は20名以上 ※未就学児は無料
※障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は半額
【主催】ピカソ展実行委員会
(福井県立美術館、福井新聞社、FBC福井放送)
【後援】在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本
【協力】AIRFRANCE エールフランス航空
【企画協力】(株)ブレントラスト



日仏交流160周年
160^e Anniversaire
des relations
franco-japonaises

(BnF) Bibliothèque
nationale de France

400年の時を超えて、今クラナハと繋がる



《若い女の肖像(クラナハ(子)による)II》1958年
©2018-Succession Pablo Picasso-BCF(JAPAN)
フランス国立図書館蔵 ©Bibliothèque nationale de France

《草上の昼食》の変奏
— ラファエロからマネ、そしてピカソへ —



《草上の昼食(マネによる)》1962年
©2018-Succession Pablo Picasso-BCF(JAPAN)
フランス国立図書館蔵 ©Bibliothèque nationale de France

20世紀最大の巨匠パブロ・ピカソ。その豊かな才能と制作量からピカソを凌駕する作家はないと評されています。

版画のみをみてもそのことは明らかで、青年期から最晩年に至る70年以上に及ぶ創作活動において
制作された版画数は2000点近くに及びます。

ピカソの版画は、美術史の巨匠たちの作品(レンブラント、ゴヤなど)から大きな影響を受けています。

本展は、フランス国立図書館所蔵の膨大なコレクションから、ピカソの重要な版画作品を厳選して紹介するとともに、
彼が美術史の巨匠たちから影響を受けて制作した数々の作品を併せて展示し、
多様に変遷したピカソの版画作品の独創的な表現の世界に光をあてる貴重な展覧会です。

開催イベント

講演会 ★申込不要・参加無料

7/28(土) 14:00～(開場 13:30)

「フランスがもたらした大津絵の再発見
— バルブー、ルロワ＝グーランからマティス、ピカソまで —」

講師: クリストフ・マルケ氏 (フランス国立極東学院 (EFEO) 院長、大津びわ湖PR大使)
場所: 当館講堂

見どころ解説会 ★申込不要・参加無料

会期中の土曜日 10:30～(約15分)

担当学芸員が作品の魅力や展覧会の見どころを紹介します。
場所: 当館講堂

※都合により中止になる場合があります。
※上記開催日時以外にも追加開催場合があります。



◆特別出品

パブロ・ピカソ《座る女》

1960年 キャンバス・油彩 富山県美術館
©2018-Succession Pablo Picasso-BCF(JAPAN)

1人の女性を、正面と両側面の複数の視点から捉え、各パーツを平面的に組み合わせて描いた作品。この時ピカソはすでに79歳。モデルはピカソの2番目の妻ジャクリーヌ・ロックで、この作品が制作された翌年、二人は結婚し、南仏の地でその余生をともに過ごしました。ピカソは彼女をモデルに400点以上の制作を行ったといわれていますが、本展出品の《ボンボンのついた帽子をかぶりプリントブラウスを着た女の肖像》や《若い女の肖像（クラナハ（子）による）Ⅱ》も同じくジャクリーヌをモデルに描いた作品です。

ピカソを魅了した若きミューズ、その名はテレーズ



《マリー・テレーズの顔》1928年
©2018-Succession Pablo Picasso-BCF(JAPAN)
フランス国立図書館蔵 ©Bibliothèque nationale de France

ゲルニカ前夜、惨劇の予感



《ミノタウロマキア》1935年
©2018-Succession Pablo Picasso-BCF(JAPAN)
フランス国立図書館蔵 ©Bibliothèque nationale de France

パブロ・ピカソ Pablo Picasso (1881~1973)

1881年10月25日、地中海に面するスペイン南部の町マラガに一人の男の子が誕生しました。のちに《アヴィニョンの娘たち》や《ゲルニカ》を制作し、20世紀を代表する巨匠として名を馳せるパブロ・ルイス・ピカソです。その作風は、青を基調に悲観的な主題を内省的に描いた「青の時代」から、明るく豊かな色調を取り戻しサーカス芸人や旅芸人を抒情的に描いた「バラの時代」、そしてジョルジュ・ブラックとの研究によって外界を二次元的な空間に解体した「キュビズムの時代」など多様に展開し、次々と新しい芸術の地平を開拓していきました。ピカソの制作意欲は絵画にとどまらず、版画、彫刻、陶芸、舞台芸術までもを手掛け、超人的な創造力で魅力溢れる作品を精力的に発表し、20世紀芸術の方向性に大きな影響を与えました。

ピカソと版画

版画はピカソの創作活動において重要な位置を占め、18歳から89歳の長い画業を通じて版画を手掛けています。その数なんと2000点近く！この膨大な制作量とそれぞれの作品の質の高さは、版画の長い歴史のなかでも際立った足跡を残しています。またその主題と技法も多岐にわたり、これらの試みはピカソにとって造形を探究する実験場になりました。特に過去の名画にインスパイアされた作品では、版画制作を通じてオールド・マスターたちと対話し、作品に新しい息吹をもたらしました。

{BnF | Bibliothèque nationale de France

芸術的・科学的な資料を収蔵するフランス、パリにある世界的な図書館。14世紀にシャルル5世によって創立された王室文庫がその歴史の端緒にあります。コレクションの内容は多岐にわたり、書籍及び印刷物、原稿、版画、写真、地図、楽譜からコイン、ビデオ、マルチメディア、装飾品、コスチューム等にいたる1500万点の資料を収集し、紹介しています。また法律によって定められた納本の義務によって、ピカソの膨大な版画作品が版元によって同館へ納められ、世界屈指の版画コレクションを形成しています。

《イベント報告》

福井県立美術館開館40周年特別企画

2018年

6/8金▶24日

主催：福井県立美術館、日本美術院

院展

現代日本画の最高峰

県立美術館では6月8日(金)から24日(日)まで、現代日本画の最高峰「院展」を開催しました。同人の新作、招待、日本美術院賞をはじめ、その他優秀作品を91点紹介。期間中は院展作家によるギャラリートークをはじめ、対談、講演会、ワークショップなどを開催し、日本画の魅力や作品の技術などについて作家の視点から語っていただく貴重な機会となりました。

《院展作家コラボイベント》

●院展作家によるギャラリートーク

作家によって切り口や対象がガラッと変わり、様々なエピソードや作家のひととなり、作品の魅力が語られました。熱心な聴衆が多く集まり、トーク後も先生を取り囲んでさらに説明が続くという一幕も。

〔日 時〕6月8日(金) 11:00~12:00

〔講 師〕清水 由朗氏(日本美術院同人、創価大学教授)、
村岡貴美男氏(日本美術院同人)

〔参加者〕30名

〔日 時〕6月9日(土) 14:00~15:00

〔講 師〕荒木 恵信氏(日本美術院院友、金沢美術工芸大学准教授)

〔参加者〕30名

〔日 時〕6月23日(土) 11:00~12:00

〔講 師〕谷 善徳氏(日本美術院特待)

〔参加者〕50名

●キッズミュージアム「はじめての日本画体験」



ながら思い思いに混色をして好みの色を作っていました。

〔日 時〕6月10日(日) 11:00~12:00

〔講 師〕高島 圭史氏(日本美術院招待、富山大学芸術文化学部准教授)

〔参加者〕20名

日本画絵の具でスウェーデンの民芸品「ダーラナホース」をイメージした白い馬にオリジナルの模様や絵を描きました。顔料に膠を入れ指で溶かすという作業では、初めての日本画体験

●対談「日本画材、最前線」

新進気鋭の日本画家と日本画用和紙を手掛ける職人による、日本画の魅力や最前線の画材についての対談。日本画家の高島氏からは学生時代からこれまでの作品についてや、展示中の院展作品から日本画の様々な技法をひもといていただきました。紙漉職人の岩野氏からは4代目を継いでから改良を加えた和紙や、原料の特性、今後の抱負について語っていただきました。

〔日 時〕6月10日(日) 14:00~15:30

〔登壇者〕高島 圭史氏(日本美術院招待、富山大学芸術文化学部准教授)、
岩野麻貴子氏(岩野平三郎製紙所代表取締役社長)

〔コーディネーター〕佐々木美帆(当館学芸員)

〔参加者〕70名



右：高島圭史氏 左：岩野麻貴子氏

●講演会「私の視点」

これまで描いてこられた絵の変遷や、絵を幾つかの層に分け螺旋の動きを意識したりなど様々な絵の秘訣を話され、またスケッチの大切さや年齢を重ねて至る境地があることなど、実感をともなった興味深いお話でした。



講演中の谷善徳氏

〔日 時〕

6月23日(土)

13:30~14:00

〔講 師〕

谷 善徳氏

(日本美術院特待)

〔参加者〕

55名

●貝合わせワークショップ

平安時代から伝わる伝統的な日本の遊び、貝合わせ。貝に箔や日本画絵具を使ってそれぞれ魅力的な絵を描きました。熱中のあまり昼飯抜きで作業をする人が続出しました。

〔日 時〕6月16日(土) 10:00～15:30

〔講 師〕谷 善徳氏（日本美術院特待）

〔参加者〕20名



熱中する参加者

《「日本の美」イベント》

●日本の美香 茶会

各校の茶道部員の皆さんにお点前を披露していただき、参加者には薄茶を振舞っていただきました。

〔日 時〕6月10日(日) 11:00～14:00

〔協 力〕啓新高等学校茶道部

〔参加者〕100名

〔日 時〕6月16日(土) 10:30～12:30

〔協 力〕藤島高等学校茶道部

〔参加者〕100名



藤島高等学校茶道部のお手前

●日本の美字 写経

書写を通じて心の調子を整える…参加された方には静かな午後のひとときを過ごしていただきました。

〔日 時〕6月10日(日) 13:00～15:00

〔講 師〕花房 禅佑氏（瑞源寺住職）

〔参加者〕12名

●日本の美音 音楽会

日本画の展示に合わせ、会場では和楽器の繊細な音色が響き渡りました。

〔日 時〕6月10日(日) 12:00～

【第1部】道場 了鳳氏（尺八）

【第2部】啓新高等学校日本音楽部（琴）

〔参加者〕50名

●日本の美色 ～手描友禅染めに観た志と誇り～

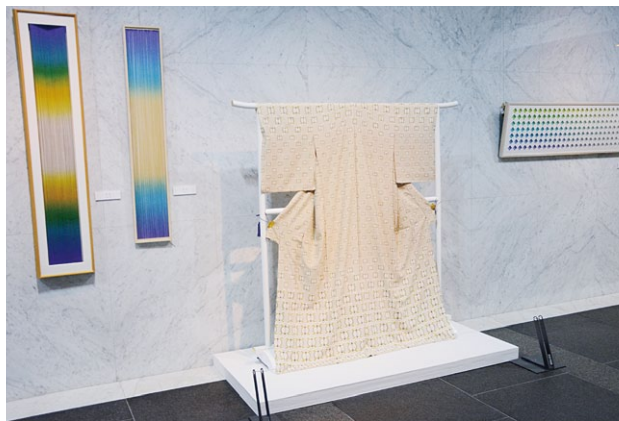
福井出身の染色家・玉村 咏氏による手描友禅染めの作品を特別に展示しました。

〔日 時〕6月13日(水)～24日(日)

〔協 力〕玉村 咏氏

【出品作品】

「白朋」、「350色のグラデーション」、「杲絲」、「耿絲」、「絲律」、「兆し」、「清輪」（手描き友禅染め訪問着） 計7点



展示風景

●日本の美甘

～6月16日は、嘉祥の日(和菓子の日)！福井和菓子の底力～
院展作品をイメージした福井の和菓子を展示しました。

〔期 間〕6月16日(土)・17日(日)

〔協 力〕福井市菓子組合連合会



和菓子展示風景

《その他イベント》

●おとな美ナイト

〔日 時〕6月16日(土) 18:00～21:00

〔講 師〕牧井 正人（県文化振興課）

佐々木美帆（当館学芸員）

〔参加者〕20名

●トークサロン

〔日 時〕6月23日(土) 17:00～18:00

〔講 師〕佐々木美帆（当館学芸員）

〔参加者〕10名



ドリンクを飲みながら楽しくトーク！



挿図1：高野山三寶院 表広間



高屋肖哲筆「高野物狂」にみる「平家納経」の引用について

椎野 晃史

紅葉の名所として知られる高野山・三寶院には、「芳崖四天王」の一人に数えられた高屋肖哲（1866～1945）の襖絵26面が伝わる（挿図1）。本襖絵は謡曲『高野物狂』に取材したもので、昨年当館で開催した「狩野芳崖と四天王」展では、本襖8面を特別に借用して展観したが、そのうち仏間の前を飾る2面の襖（挿図2）に注意を払いたい。ここに描かれているのは秋深まる深山幽谷の地に一人佇む老いた僧である。山中の庵室は切立つ崖の上にあり、^{あかだな}関枷棚が設けられている。また縁先には水瓶、^{すいびょう}草履、^{かせづえ}鹿杖が置かれ、庵室に至る階段も見える。僧は脇息に両肘をつき、左手で開かれた卷子（経典）を持ち、中空に視線を遊ばせている。その先には、列を成して飛ぶ渡り鳥の群れ（雁か）が描かれ、画中には秋にふさわしい情景が広がる。

さてこの図様には肖哲が参照した古画の存在を指摘できる。「平家納経（神力品）」の見返しである（挿図3）。図様引用の意味など、今後詳細な検討を要するが、崖の形態と庵室の向き、右側に広がる空間とそこに飛翔する鳥の群れ、僧の特徴的な姿態、縁先に置かれた一連のモチーフなど一致する。もとより季節が秋であることも重要な符合であろう。「平家納経」は明治8（1875）年開催の京都府博覧会以降たびたび展観されており、また明治期から修復や模本制作が行われ、あるいは雑誌等の印刷物に繰り返し紹介されるなど、広く知られた存在であった。問題の神力品の見返しも、例えば大正9（1920）年発行の『美術画報』（43編巻3）にモノクロ図版が掲載され、展観や印刷物を介して肖哲が目にした可能性は高いであろう。また先行研究において報告されているとおり、明治宮殿常御殿襖画や下村観山筆「大原御幸」の見返しなどに「平家納経」のイメージが認められ、「平家納経」が近代の画家にとって重要なイメージソースとして認識されていたことをうかがわせる。

本襖絵の存在は肖哲の広範囲に及ぶ古画学習の成果を伝えるとともに、近代日本画における「平家納経」の受容、あるいはそのイメージの広がり、そしてカノン化された「平家納経」の在り様を示す作例として看過できない。



挿図2：高屋肖哲「高野物狂」26面のうち2面 大正14年（1925）高野山・三寶院



挿図3：「平家納経（神力品）」（見返し部分）広島・厳島神社『聖と隠者—山水に心を澄ます人々—』（奈良国立博物館、1999年）より転載

〈平成30年度 春の見学会〉

日 時◎平成30年6月26日(火) 参加人数◎46名
旅 程◎石川県立美術館 → 富山県水墨美術館 → 富山県美術館

今年の友の会春の見学会は、麗らかな春の日差し…ではなく、灼けるような夏の日差しのもと決行。北陸の県立美術館を巡った今回の旅行で、まず訪れたのはお隣の石川県立美術館。ここでは「若冲と光瑠」展を鑑賞しました。6月23日に始まったばかりの展覧会ですが、昨今の伊藤若冲ブームを受けて、会場内には人垣が。会員の皆さんは若冲のユーモアにあふれる作品、またその超絶技巧を楽しまれたようです。また石崎光瑠のダイナミックな構図と煌びやかな極彩色の作品に会員は新鮮な驚きと感動を覚えたようでした。

昼食とますのすしミュージアムを挟んで富山県水墨美術館へ。愛知にある名都美術館の名品を紹介する「恋する日本画」展では、近現代日本画の巨匠の作品がズラリ。個人コレクターの収集志向が垣間見られる興味深い展示で、特に美人画を集めたコーナーはとても華やかで存在感がありました。会員には広々とした庭園も人気で、数名は集合時間を忘れるほど庭園に見入っていました。

最後は昨年に新館がオープンしたばかりの富山県美術館です。ここでは高野山金剛峰寺に奉納する襖絵の完成記念として開催されていた「千住博展」を見学。圧巻のスケールと美で魅せる千住作品を皆さん熱心に鑑賞されていました。また初めて新館に訪れた会員も多く、館内を隈なく歩き回って見学したようです。

意図せずして、近現代日本画ツアーとなった今回の見学会。日本画の多様性、奥深さを再認識した有意義な見学会となりました。



石川県立美術館

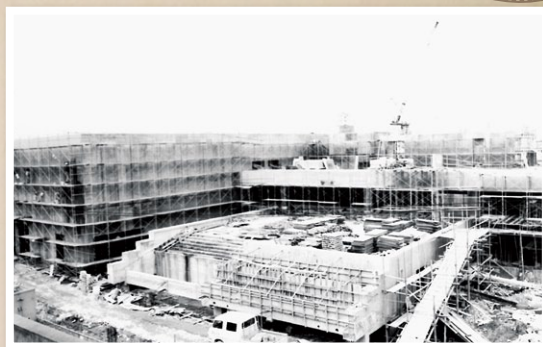


富山県美術館

シリーズ ふく美の記憶① 開館前夜（～1977）

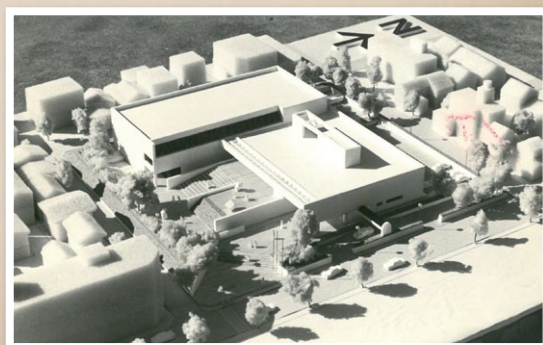


建設中の美術館



建設中の美術館

開館40周年を迎えた福井県立美術館の歴史を振り返るシリーズ「ふく美の記憶」、その第1弾は開館前夜の記憶から。昭和23（1948）年、第1回県総合美術展の開催がそのトリガーだった。県美展の開催を発端に、美術に対する県民の関心が高まり、その結果として昭和27（1952）年に県立美術館の建設を求める運動が起こる。しかしながら、その実現には長い時間を要した。実際に建設の基本構想が発表され、県立美術館建設準備室が設置されたのは20年以上経った昭和50（1975）年のことだった。建築設計は佐藤武夫設計事務所。昭和51（1976）年7月ようやく工事が始まり、翌年9月に竣工した。



福井県立美術館模型

次回展覧会のお知らせ

幕末明治 福井150年博

ニッポンの夜明けは福井から

【会期】
平成30年
9月22日(土)～11月1日(木)
※休館日:10月9日(火)
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

【料金】
一般・大学生 100円
(20名以上の団体は2割引き)
※70歳以上、高校生以下、
障害者手帳等所持者とその介助者1名は無料

幕末明治のアートシーン

福井ゆかりの作家と同時代の巨匠の作品から

今から150年前の1868年、250年にもおよぶ江戸時代が幕を閉じ、明治という新しい時代が始まりました。それによって日本の政治や人々の生活は大きく変化、美術もまたその影響を受け、多くの作家が活躍、以前とは異なる作品や表現が生まれました。

明治維新150年を記念して開催する本展では、近代に活躍した福井ゆかりの美術指導者岡倉天心と、島田墨仙・岡倉秋水・岡不崩・内海吉堂・山田鬼斎ら福井出身作家、そして横山大観・菱田春草・竹内栖鳳・小林古径・安田靉彦など同時代の著名作家の作品を展示し、当時の美術の一面をご紹介します。



横山大観「老君出関」(中幅部分) 福井県立美術館



木村武山「花鳥図(日盛り)」(右隻) 福井県立美術館



怪しや漂う
この夏限定
スイーツ!

「ピカソ展」スペシャルメニュー

ピカソくんパフェ

自家製の黒糖苺アイス、蜂蜜カステラ、フリーズドライいちご、チョコチップなどを贅沢に盛り合わせ、その頂きにクッキーをあしらった、ピカソ展限定の特製パフェです。

Contact

美術館喫茶室 **ニホ**

[open] 9:00～19:00

[closed] 月曜日

tel: 0776-43-0310 *無料Wi-fi*
address:

〒910-0017 福井市文京3丁目16-1
福井県立美術館 正面左手

*美術館が休館でも、
月曜日以外は営業しております。

絵・文 ささきみほ



お知らせ

©2018年8月～9月の休館日について

展示替え、館内メンテナンスなどのため、下記期間は休館とさせていただきます。

8月6日(月)、27日(月)～9月14日(金)